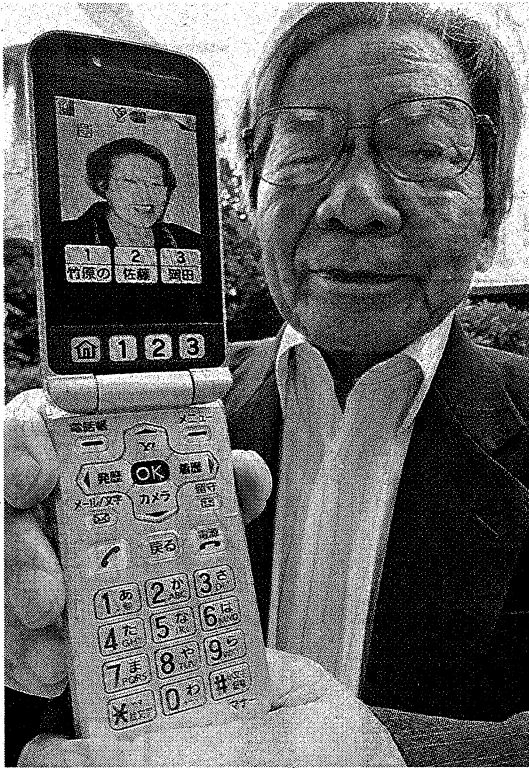


東京新聞

● 中日新聞東京本社
東京都千代田区内幸町二丁目1番4号
〒100-8505 電話 03(6910)2211

孤独死 携帯で「待った」

高齢化が進む東京都新宿区の戸山団地(百人町)で孤独死をなくすため、地元のNPO法人「人と人をつなぐ会」が、携帯電話による見守りサービスを始めた。菅直人首相が所信表明演説で「孤立化」を防ぐネットワークの充実を訴えたばかり。孤立化対策が、都心でも地方でもキーワードになりそうだ。



携帯電話による見守りサービスを始めた「人と人をつなぐ会」の本庄会長(東京都新宿区で、松村裕子撮影)

戸山団地は約二千三百戸の大規模な都営住宅。独り暮らしの高齢者が多く、今春、住民が死後二カ月で発見された。つなぐ会の本庄有由会長(右)も独り暮らし。「明日はわが身。安価で便利な最新機器を使って孤独死をなくしたい」と話す。

戸山団地のNPO

つなぐ会は団地有志で三年前に発足し、据え置き式見守り端末の設置を進めてきたが、外出時には対応できないなどの課題も多く、携帯電話を使うシステムに切り替えた。
孤独死の定義は明確でないが、東京都監察医務院によると、二〇〇八年に東京二十三区内の六十五歳以上の独居者で、自宅で死亡したのは二千二百十一人。うち三分の二は親族以外の方が第一発見者となっていた。

た携帯電話とコールセンター会社「愛ことば」(豊島区)のサービスを利用。二十四時間、ボタンを押すと、センターの係が「体調が悪い」「困り事ができた」などの事情を聞き、適切な相談場所へ転送。事前登録したかかりつけ医や知人にもつながる。朝一番に電話を開いたとき、親族や知人に、自動的にメールで「健在」を知らせる仕組みも。利用料は月三千〜四千元という。
目黒区はボランティアによる見守りを今年から始めた。中野区には町内会に個人情報を提供して見守りを強化する構想がある。世田谷区では、新聞販売店が高齢者宅に新聞がたまったら、区の施設に連絡する試みが始まった。

見守りサービス 24時間相談・転送